

令和6年度愛媛県立松山東高等学校 卒業式式辞

本日、この佳き日、令和6年度 愛媛県立松山東高等学校 卒業証書授与式を挙行できますことは、我々教職員一同、この上ない喜びであり、御臨席を賜りました御来賓の皆様をはじめ、保護者の皆様方に、厚くお礼を申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました卒業生の皆さん、御卒業、おめでとうございます。この東高で、勉学や部活動、学校行事に励み、目標に向かって躍動してくれた皆さんが、本日、卒業を迎えられることを、うれしく思います。

皆さんがこれから進んでいく現代社会では、世界を、人々を、分断させるかのような動きが加速し、国際社会でも、そして、日本でも、自分以外のものを標的にして強い言葉で批判する、自分と違う考えの者を排除する、それがまるで強いことであるかのような風潮が強まっているように思います。

どのような現場でも、どのような領域でも、意見の食い違いはあるでしょう。しかし、本校を卒業していく皆さんには、意見の食い違う人と一緒に、皆が納得する答えを見つけてほしい、その努力ができる人になってほしい、と願っています。

私は、これまで折に触れて、思いの深さとそれに伴う実行力の重要性を「情熱と実行」という言葉で、また、他者への思いやりや感謝の大切さを「豊かな人間性」という言葉で、皆さんに伝えてきました。

今、卒業に当たって、皆さんに伝えたい言葉は、「強さと賢さ」です。

強さとは、誰の意見をも受け入れぬ頑なな強さではありません。そして、賢さとは、自分の意見を通すためだけに用いる「ずる賢い知恵」奸智ではありません。

本当の強さとは、思うようにならないとき、辛抱してその逆境を跳ね返す、柳のようなしなやかな強さ、本当の賢さとは、柔軟な思考で仲間とともに問題を解決する、リーダーシップとフォロワーシップを兼ね備えた賢さ、その本当の強さと賢さは、他者への思いやりや感謝という豊かな人間性に裏打ちされています。そして、東高で学んだ皆さんなら、きっと身に付けることができるだろうと思っています。

皆さんなら、豊かな人間性に、本当の強さと賢さを持って、自分の未来だけでなく社会の未来をも、切り開いていける、そう信じています。

保護者の皆様、本日は、誠におめでとうございます。本校ゆかりの秋山好古の詠んだ歌があります。「なべてとて育つものとは知りながら なぜかくまでに子を思ふかな」。この歌のとおり、お子様を心配しない日はなかったことと存じます。これまで、お子様を支えてこられました保護者の皆様に敬意を表しますとともに、心からお喜びを申し上げます。

卒業生の皆さん、いよいよ旅立ちです。これからの未来を担う皆さんの希望に満ちた門出に、「情熱と実行」「豊かな人間性」、そして「強さと賢さ」というはなむけの言葉を添え、更なる飛躍と御健康をお祈りして、式辞といたします。

卒業、おめでとう。

令和7年3月1日

愛媛県立松山東高等学校長 沖田浩史